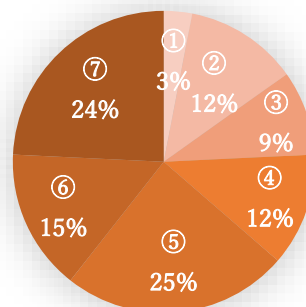


神戸市の文化芸術の未来を考えるフォーラム 事後アンケート 要旨

当アンケートはフォーラム終了後、参加者に対して実施したものです。有効回答数は33件（うち一般枠20件、芸術文化団体枠11件、その他2件）でした。ここでは、主な設問への回答をまとめています。

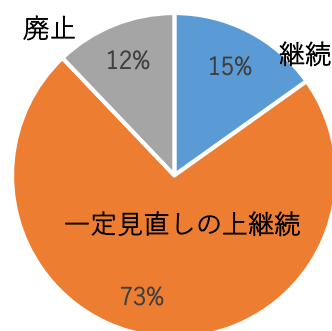
1. フォーラムを通じて対話が進んだか

- ①（進まなかった）から⑦（進んだ）の7段階評価
→⑤～⑦（対話が進んだ）との回答が65%



2-1. 楽団への補助金について

- 補助金は継続すべき 15%（5件）
- 活動内容や補助金額等を見直して継続すべき 73%（24件）
- 補助金は廃止すべき 12%（4件）



2-2. 神戸市室内管弦楽団への市補助金に対する主なご意見（自由記述）

(ア) 補助継続に賛成

- 市民参加の拡充や十分な議論を通じ、「文化都市神戸」の視点で検討すべき
- 制度（条例・計画等）や財政基盤を整備した上で継続すべき
- 楽団の存続は神戸の文化価値維持に不可欠であり、将来や他都市比較からも継続が妥当
→文化的価値に着目する意見が多数

(イ) 一定見直しの上で継続

- 補助金を活用しつつも、運営改善やマネジメント強化を図るべき。民間協賛やクラウドファンディング等により、自主財源の拡充と持続的運営を目指す。
- 補助金依存や体制のあり方（独立性・地域性・当事者意識）を見直し、場合によっては抜本的改革や独立も検討すべき
- 広報・認知度向上（地下鉄広告等）や地域貢献活動（病院へのコンサートなど）を強化し、市民理解と支持を高めるべき
- 必要最低限の補助金は維持すべきだが、適正水準に見直しを。
- 市と楽団の連携や対話を深め、運営体制や役割分担を見直す必要がある
- 補助金と楽団存続は別に考えるべき

→運営改善、自主財源の確保、広報・市民理解、活動内容の充実への言及が見られた

(ウ)補助金は廃止すべき

- ・ 補助金に依存せず、楽団は自立した運営を目指すべき
 - ・ 税金投入の妥当性や公平性への疑問がある
 - ・ 楽団側の危機感や当事者意識が不足している
- 財源や公平性の議論